

全国の教育労働者は 11・3日比谷野音へ

11・3で100人声明からアピール

映画「ひろしま」の鑑賞・討論会を開催

11・3全国労働者集会&改憲阻止!一万人行進で広島教職員100人声明の発言が予定されています。全国の教育労働者の結集を訴えます。以下、広島からの投稿を紹介します。

10月13日、改憲・戦争阻止!教え子を再び戦場に送

*

らない!広島教職員100人声明が主催する学習会で映画「ひろしま」の鑑賞会・討論会を行いました。

この映画は被爆から8年後の1953年に作られました。総製作費の半分を日教組、10分の1を総評が受け持ち、広教組と広島市民の全面協力のもと、市民

9万人がエキストラとして参加し作られました。あの日、広島で

何が起きたのか。人々はどう死に、どう生きたのか。そしてこれから生きていきたいのか。

実際に被爆を体験した人々が映像で再現し、日本と世界に広島の実相を伝えようとなりました。これだけ広島教職員、市民、子どもたちの思いが詰まった映画はほかに見たことがありません。100人声明にとっても自らの拠り所となるような映画でした。



上映後の討論では、参加者から「広島で何が起ったのか知っていたらどうだったか」など、被爆後の差別は、福島でも繰り返されていく」と

「劇中で語

られた『世界へ発信する前に、日本の、いや広島のもの、このクラスの人に知ってほしい』という被爆した生徒の言葉、あるいは『大砲を作ることにしたから工場を辞めた』という原爆孤児だった青年の言葉は、今の私たちに突き刺さる。問われていることは今も同じだ」

「広島の原因から、改めて今の拡声器規制問題など考えていきたい」「悔いの残らないよう、動けるうちに少しでも多く活動したい」

——などの感想があふれました。

この心を引き継ぐのは私たちでありたい。そして、一人でも多くの人にこの映画を見てもらい、一緒に考えたい。改憲・戦争など絶対に繰り返してはならないと、参加した一人ひとりが心から思いを新たにすることができました。

11・3集会ではその思いをなるべくたくさんの方々に登壇し、アピールしたいと思えます。